

三種混合ワクチン(DPT)の予防接種を受けられる方へ

〈ワクチンの効果と副反応〉

ワクチンの接種により、百日せき、ジフテリアおよび破傷風に対する抗体ができることで、これらの疾患の発症を予防する効果が期待できます。

副反応としては、注射部位の症状として紅斑、硬結(しこり)、腫脹(はれ)、そう痒感(かゆみ)、疼痛、熱感など、全身症状として発熱などがあらわれるほか、発しん、下痢、鼻漏(はなみず)、頭痛などがあらわれることがあります。硬結は1か月以上残ることがあります。2回以上接種した人には、ときに強い局所反応があらわれることがあります。非常にまれですが、重大な副反応として(1)ショック、アナフィラキシー(じんましん、呼吸困難、血管浮腫など)、(2)血小板減少性紫斑病(接種後数日から3週間ごろにあらわれる紫斑、鼻出血、口腔粘膜出血など)、(3)脳症(発熱、四肢麻痺、けいれん、意識障害など)、(4)けいれん(接種直後から数日ごろまで)があらわれることがあります。なお、副反応による健康被害が生じた場合の救済については、健康被害を受けた人または家族が独立行政法人 医薬品医療機器総合機構法に基づいて手続きを行うこととなります。

〈予防接種を受けることができない人〉

- ① 明らかに発熱のある人(37.5℃以上)
- ② 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人
- ③ 過去に三種混合ワクチンに含まれる成分で、アナフィラキシーを起こしたことがある人(他の医薬品投与でアナフィラキシーを起こしたことがある人は、予防接種を受ける前に医師へその旨を伝え、判断を仰いでください)
- ④ その他、医師が予防接種を受けることが不相当と判断した人

〈予防接種を受ける際に、医師とよく相談しなくてはならない人〉

- ① 発育が遅く、医師や保健師の指導を継続して受けている人
- ② カゼなどのひきはじめと思われる人
- ③ 心臓病、腎臓病、肝臓病、血液の病気などの基礎疾患がある人
- ④ 予防接種を受けたときに、2日以内に発熱、発しん、じんましんなどのアレルギーを疑う症状がみられた人
- ⑤ 今までにけいれんを起こしたことがある人
- ⑥ 過去に免疫不全と診断されたことがある人および近親者に先天性免疫不全症の人がいる人
- ⑦ 三種混合ワクチンの成分に対してアレルギーを起こす可能性のある人

〈予防接種を受けたあとの注意〉

- ① 予防接種を受けたあとの30分間は体調に変化がないか接種場所で様子をみましょう。やむをえず帰る場合は、すぐに医師と連絡がとれるようにしておきましょう。急な副反応が、この間に起こることがまれにあります。
- ② 接種後、1週間は副反応の出現に注意しましょう。
- ③ 接種部位は清潔に保ちましょう。入浴は差し支えありませんが、接種部位をこすことはやめましょう。
- ④ 接種当日は接種前も含め、はげしい運動は避けましょう。
- ⑤ 接種後、接種部位の異常な反応や体調の変化があった場合は、速やかに医師の診察を受けましょう。

あなたの接種予定日	医療機関名
月 日()です 当日は受付に 時 分頃おこしてください	